

使用済み商用車架装物 解体マニュアル

衛生車(バキュームカー)

【VC式汚水車・給水車・散水車・廃油ローリー共通】

1. 解体マニュアルは一般的な事例を示しています。掲載している図、表は実物と異なる場合がございますのでご了承ください。
2. 解体作業に伴う作業上の注意事項、事前選別対象部品、環境負荷物質の取扱い等につきましては、「使用済み商用車架装物解体マニュアル(株式会社モリタエコノス 共通編)」を併せてご覧ください。
3. このマニュアルは解体方法に関する参考資料としてご提供するものですので、実際の解体作業においては各社様のご判断により作業を進めてください。

内 容

1. 解体前の準備 残圧・洗浄残液の抜き方
2. 衛生車架装物の解体マニュアル
3. VC式廃油ローリー架装物の解体マニュアル
4. ゴム系ライニングタンクの解体マニュアル
5. 樹脂系ライニングタンクの解体マニュアル
6. お問い合わせ窓口

株式会社 モリタエコノス

目 次

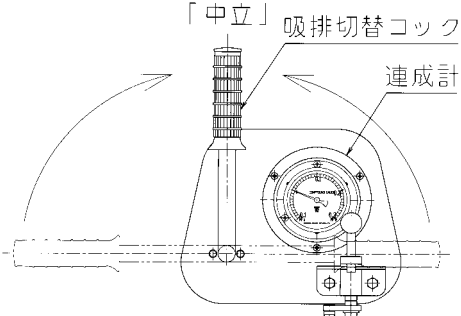
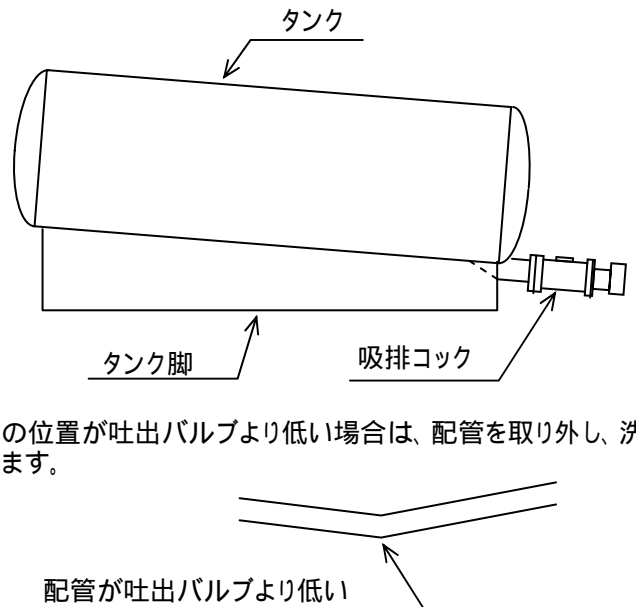
項 目	ページ
1. 解体前の準備 残圧・洗浄残液の抜き方	1
2. 衛生車架装物の解体マニュアル 【VC式汚水車・給水車・散水車共通】	3
2 - 1. 構造概要図	3
2 - 2. 解体マニュアル	4
3. VC式廃油ローリー架装物の解体マニュアル	5
3 - 1. 構造概要図	5
3 - 2. 解体マニュアル	6
4. ゴム系ライニングタンクの解体マニュアル	7
5. 樹脂系ライニングタンクの解体マニュアル	7
6. お問い合わせ窓口	8

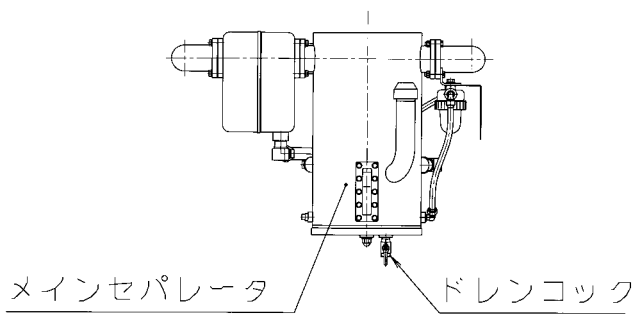
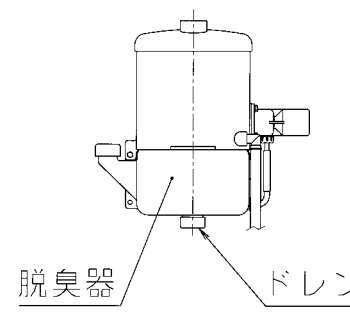
1. 解体前の準備 残圧、洗浄残液の抜き方

1 - 1. 受け入れ

番号	項目	内容	備考
1	受入	タンク内は洗浄を完全に行い、安全が確認出来た状態で受入して下さい。	
2	積載物の確認	積載物が何であったかを必ず確認して下さい。 ・危険物の場合は、火災、爆発等の危険があります。 ・劇毒物等の場合は、中毒・火傷・刺激等による人体への危険があります。 ・積載物を確認しないまま、マンホールやバルブを開ける事は危険ですので注意して下さい。	

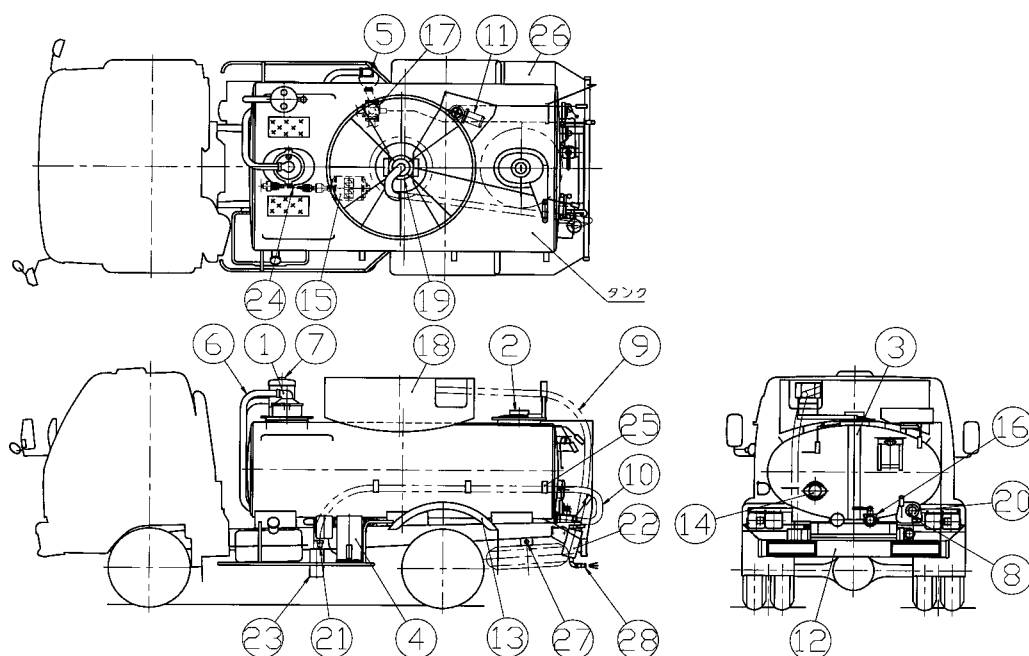
2 - 2. 解体事前準備

1	残圧抜き	<p>タンク内に残圧があると、溶断・切断時に爆発等の危険が有りますので、必ず残圧を抜いて下さい。</p> <p>・吸排切替コックを「中立」にすることにより残圧が抜けます。 ・連成計の圧力が「0」になっていることを確認してください。</p> <p>「注意」 ・マンホールや吸排コック等を開ける場合は、必ずタンク内の残圧を抜いてから行ってください。</p> 	
2	洗浄残液抜き	<p>タンク内に洗浄残液がある場合には、下記により洗浄残液を抜いて下さい。</p> <p>「手順」 1) タンク・配管内の残液は、吸排切替コックを「中立」にし、吸排コックを「開」にして抜きます。</p>  <p>2) 配管の位置が吐出バルブより低い場合は、配管を取り外し、洗浄残液を抜きます。</p>	抜いた洗浄残液の処理についてはユーザ又は洗浄業者の指示に従い、残液の処理基準により処理してください。

番号	項目	内 容	備 考
3	潤滑油抜き	真空ポンプ潤滑油は、メインセパレータ下部のドレンコックより抜きます。  <p>メインセパレータ ドレンコック</p>	潤滑油は専門業者にて処理してください。 【潤滑油容量】 小・中型車 約 4.7L 大 型 車 約 9L
4	脱臭液抜き	脱臭液は、脱臭器下部のドレンより抜きます。  <p>脱臭器 ドレン</p> <p><u>脱臭液の廃棄方法</u> 中和法：水を加えて希薄な水溶液とし、アルカリ成分(希苛性ソーダ、希苛性カリ等)で中和させた後、多量の水で希釈して処理する。 (廃棄処理に伴う生成物については水質汚濁防止法等関連法令に適合するよう充分留意してください。)</p>	【脱臭液容量】 小・中型車 約 5L 大 型 車 約 6L
5	残留ガス抜き	タンク内には、残留ガス(危険物、毒物ガス、不活性ガス等)が入っている可能性があるため、タンク内のガス抜きを行って下さい。 ・ガス抜きは、底弁及びマンホールを必ず開にして、エアを右または左の配管から入れて内部ガスを追い出してください。 ・エアが無い場合は、タンク内に水を満載にしてガス抜きを行ってください。	タンク内に入る場合は酸欠に十分に注意してください。
6	安全確認	危険物ローリの場合は、ガス濃度測定器で安全を確認してから作業にかかってください。	

2. 衛生車架装物の解体マニュアル

2 - 1. 衛生車架装物の構造概要図



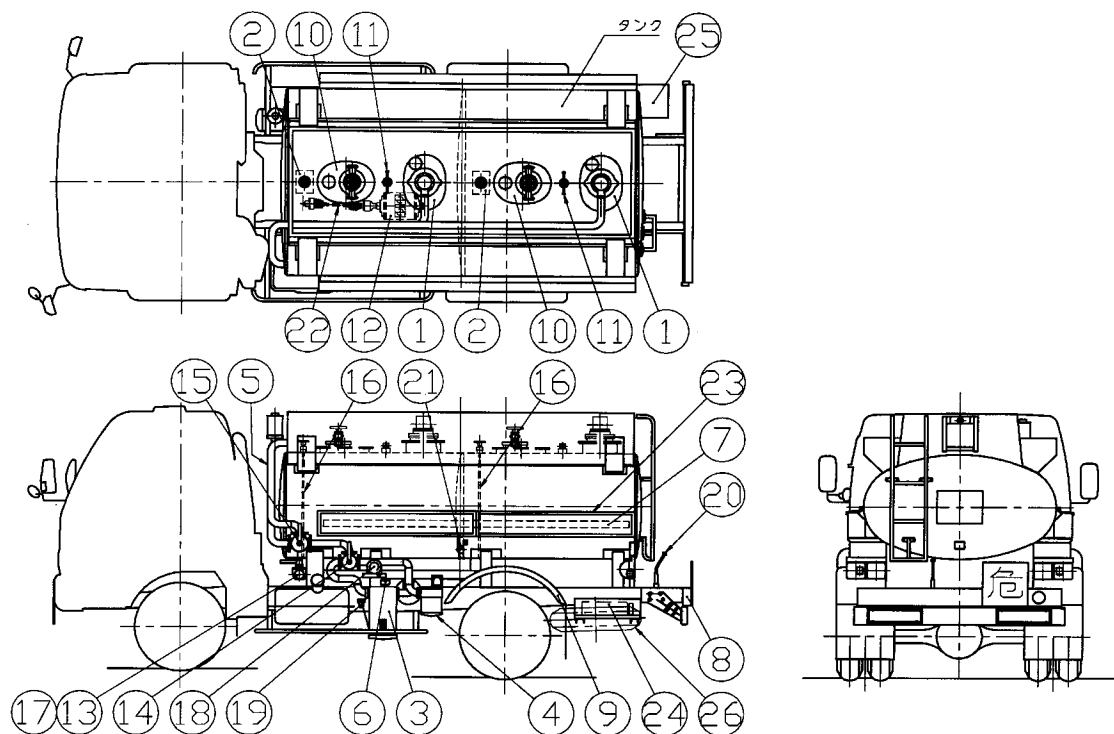
品目番号	品目名	品目番号	品目名	品目番号	品目名
1	主マンホール	11	リール駆動装置	21	オイルクリーナ
2	予備マンホール	12	リヤバンパー	22	吸入用ストレナ受
3	物量計	13	フェンダー	23	排出用ストレナ受
4	メインセパレータ	14	掃除口	24	駆動伝達ジョイント
5	ドレンセパレータ	15	真空ポンプ	25	吸管受
6	真空配管	16	吸排コック	26	外装部品
7	脱臭器	17	吸排切替コック	27	スペアタイヤキャリア
8	作業用スロットル	18	ホースリール	28	散水ノズル(散水車)
9	吸入ホース	19	吸入コック		
10	排出ホース	20	連成計		

2 - 2 . 衛生車架装物の解体マニュアル

品目番号	品目名	解体方法	注意事項
	事前処理	タンク内積載物の残物の洗浄、清掃処理を専門業者にて実施する。 必ず中身を確認願います。	引火、酸欠、中毒等に 注意してください。
	事前処理	残圧及び洗浄残液を抜く。抜き方については、 「解体前の準備 残圧、洗浄残液の抜き方」を参照願います。	
	事前処理	主要な外装部品を取り外す。	
車両全体	架装物	締結具等のボルトを取り外し、シャーシと架装物を切り離します。	シャーシ側とつながっている 伝達ジョイントを切り離す。
架装物	タンク本体	溶断、切断等により、裁断し材料により分別します。	引火、切断フェーム、粉塵等に 注意してください。
1	主マンホール	金属類とゴム類、樹脂類に分別します。	
2	予備マンホール	同上	
3	物量計	同上	
4	メインセパレータ	同上	ドレンから油を抜く。
5	ドレンセパレータ	同上	ドレンから残液を抜く。
6	真空配管	同上	取り外して、残液を抜く。
7	脱臭器	同上	ドレンから残液を抜く。
8	作業用スロツトル	同上	
9	吸入ホース	同上	取り外して、残液を抜く。
10	排出ホース	同上	取り外して、残液を抜く。
11	リール駆動装置	同上	
12	リヤバンパー	同上	
13	フェンダー	同上	
14	掃除口	金属とゴム類に分別します。	
15	真空ポンプ	同上	ドレン等から残液を抜く。
16	吸排コック	金属類とゴム類、樹脂類に分別します。	
17	吸排切替コック	同上	
18	ホースリール	同上	
19	吸入コック	同上	
20	連成計	金属とゴム類、樹脂類、ガラス類に分別します。	
21	オイルクリーナ	同上	取り外して、油を抜く。
22	吸入用ストレーナ	金属と樹脂類に分別します。	
23	排出用ストレーナ	同上	
24	駆動伝達ジョイント	取り外し、分別します。	
25	吸管受	同上	
26	外装部品	同上	
27	スペアタイヤキャリア	同上	
28	散水ノズル	同上	

3. VC式廃油ローリー架装物の解体マニュアル

3 - 1. VC式廃油ローリー架装物の構造概要図



品目番号	品目名	品目番号	品目名	品目番号	品目名
1	主マンホール	11	検尺口	21	アースリール
2	ボトムバルブ	12	真空ポンプ	22	駆動伝達ジョイント
3	メインセパレータ	13	吸排コック	23	ホース格納箱
4	ドレンセパレータ	14	吸排切替コック	24	消火器
5	真空配管	15	タンク室切替コック	25	外装部品
6	作業用スロットル	16	ボトムバルブコントロール	26	スペアタイヤキャリア
7	吸排ホース	17	ローリー配管		
8	リヤバンパー	18	連成計		
9	フェンダー	19	オイルクリーナ		
10	予備マンホール	20	緊急閉鎖装置		

3 - 2 . VC 式廃油ローリー架装物の解体マニュアル

品目番号	品目名	解体方法	注意事項
	事前処理	タンク内積載物の残物の洗浄、清掃処理を専門業者にて実施する。 必ず中身を確認願います。	引火、酸欠、中毒等に 注意してください。
	事前処理	残圧及び洗浄残液を抜く。抜き方については、 「解体前の準備 残圧、洗浄残液の抜き方」を参照願います。	
	事前処理	主要な外装部品を取り外す。	
車両全体	架装物	締結具等のボルトを取り外し、シャーシと架装物を切り離します。	シャーシ側とつながっている 伝達ジョイントを切り離す。
架装物	タンク本体	溶断、切断等により、裁断し材料により分別します。	引火、切断フェーム、粉塵等に 注意してください。
1	主マンホール	金属類とゴム類、樹脂類に分別します。	
2	ボトムバルブ	同上	取り外して、残液を抜く。 引火等に注意してください。
3	メインセパレータ	同上	ドレンから油を抜く。
4	ドレンセパレータ	同上	ドレンから残液を抜く。
5	真空配管	同上	取り外して、残液を抜く。
6	作業用スロットル	同上	
7	吸排ホース	同上	取り外して、残液を抜く。
8	リヤバンパー	同上	
9	フェンダー	同上	
10	予備マンホール	金属とゴム類に分別します。	
11	検尺口	同上	
12	真空ポンプ	同上	ドレン等から残液を抜く。
13	吸排コック	金属類とゴム類、樹脂類に分別します。	
14	吸排切替コック	同上	
15	タンク室切替コック	同上	
16	ボトムバルブコントロール	金属とゴム類に分別します。	
17	ローリー配管	同上	取り外して、残液を抜く。 引火等に注意してください。
18	連成計	金属とゴム類、樹脂類、ガラス類に分別します。	
19	オイルクリーナ	同上	取り外して、油を抜く。
20	緊急閉鎖装置	分解又は内部可溶物を溶解して分別します。	内部スプリングが飛び出すので 怪我に注意してください。
21	アースリール	金属類と配線類に分別します。	配線重量 約0.3 ~ 1kg。
22	駆動伝達ジョイント	取り外し、分別します。	
23	ホース格納箱	同上	
24	消火器	同上	消火器本体は専門業者にて 処理してください。
25	外装部品	同上	
26	スペアタイヤキャリア	同上	

4. ゴム系ライニングタンク解体マニュアル

番号	項目	内 容	備 考
1	ライニングの種類及び材質	天然軟質ゴム 天然軟硬質ゴム 天然硬質ゴム ブチルゴム クロロプレンゴム	
2	取扱い注意事項	入槽時の注意: 各タンク共に洗浄処理の事 塩酸、次亜鉛素酸ソーダ: 防毒マスク 苛性ソーダ、苛性カリ、弗酸: 保護メガネ着用	
3	解体(タンクからの剥ぎ取り方)手順	マンホール、挿入管部品解体 内部酸欠測定 防 波板のゴム剥ぎ(手作業) 本体のゴム剥ぎ(火気 使用: 外板をフロパンスパナであぶりながら、換気を 充分行い火傷に注意しながら、内部の人が剥ぎ道 具を使用し、剥がす。)	
4	リサイクルの有無	基本的にはリサイクルは不可です。	
5	受取り方	防食の為にライニング施工されており、廃棄処分する 場合内部洗浄は完全に実施され、中和状態を確認 して受け取る。 特に、塩酸、弗酸はゴム中に広く浸透しているケースが ある為、中和処理状態を十分確認してください。 洗浄水もローリ内に残らない事を確認してください。乾 燥状態で受け取る。 ゴム重量例、9KLタンクにて約330kg。	

5. 樹脂系ライニングタンク解体マニュアル

番号	項目	内 容	備 考
1	ライニングの種類及び材質	シートライニング フッ素樹脂ライニング (PTFE + ガラスクロスをバックグ)	
2	取扱い注意事項	融点(310 ~ 317)を超える加熱により、有害な 熱分解ガスが発生。 熱分解ガスを吸わないようにすること。 焼却しないこと。	
3	解体(タンクからの剥ぎ取り方)手順	シート面に切り目を入れ、プライヤー等の工具を用い て剥がす。	
4	リサイクルの有無	無し	
5	重量	10KLタンクにて約260kg。	

6. お問い合わせ窓口

本解体マニュアルに関しまして、お問い合わせ事項等ございましたら、
下記までお願いいたします。

株式会社モリタエコノス 技術開発部

TEL 0729 - 95 - 0615

以上